

報新団教

定 価 1部150円(本体137円+共214円)
 予約購読料 1年分 千共 5,350円
 紙代のみ 3,750円
 振替 00140—9—145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。

教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日 本 基 督 教 団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 URL <http://uccj.org>

発行人 秋 山 徹
 編集主筆 嶋 田 恵 悟
 印刷所 株式会社きかんし



日本キリスト教会柏木教会に 170 余名が集う

キリストの平和の実現のために

東アジアを巡る2つの集会、日本で開催

今日の日本の政治・経済・社会の關係において、
 除しい言葉と報復のやり取りが交わされる中で、
 表記の集會が10月9日夕に日本キリスト教会柏木教會で開かれた。教団をはじめ、在日大韓基督教會、日本聖公會、日本福音ルーテル教會、日本バプテスト連盟、日本バプテスト同盟、日本キリスト教會、日本カトリック正義と平和協議會などによる実行委員會の主催で、予想を超える170余名の参加者によつて盛大に行われた。

この集會は、去る8月11日に昨今の社会状況を憂える韓国の教會からの呼びかけで、ソウルで行われた集會の連続で、日本でもぜひこの祈りの會を開きたいとの願ひを受

けて開かれたもの。韓国からは20名ほどの参加者があり、同じ主を仰ぐキリスト者として、隔ての壁をご自身の血によって取り除き、和解をもたらしてくださいった主イエス・キリストに心を合わせて祈った。

の教会やYMCAなど各
セクター10数団体からの
平和を求める祈禱文が読
み上げられ、共同の祈り
がささげられた。

石橋議長はメッセージ
では「以前は遠く離れて
いたが、今や、キリス
ト・イエスにおいて、キ
リストの血によって近い
者となったのです。…」
「キリストにおいて、キ
リストの血において、十

十字架において、二つのものを一つにし、一人の新しい人を造り上げ、敵意を十字架にかえて滅ぼされました」の聖句から、「この御言葉は、私たちの罪の告白と悔い改めのしには聞くことができない御言葉です。日本基督教団は国家の政策に追従して、罪を犯しました。そして、現在も政治的問題に振り回されて、主に

実現のために日本の教会と韓国との教会とで真剣に祈る時を主が備えてくださったことを感謝すると述べた。

李総幹事は「安倍政権は歴史的正義を否定し、再び戦争遂行可能な国に進めようとし、帝国主義的な野心を具体化しようとしている。今この時、韓国と日本の良心的なキリスト者と市民が手を

携えて『東北アジア共同の家』建設を目指して和解と平和の道に進むべきだ」と述べた。この集会のために来た聖歌隊による力強い賛美もあって、和解と平和を求める祈りを熱くさせられた。

また、この集会で7月

に平壤を訪れた訪問団の報告会も行われ、朝鮮民主主義人民共和国のキリスト者との交流の、まだ細い流れではあるが、和解と贖罪の主の導きによる歩みが始まっていることとの報告を受けた。

(秋山 徹報)



李韓国

❖ 帝國主義の影響と宣教の課題についての東アジア部会 ❖

台湾孤立化の課題を共有

昨年の11月に台湾基督長老教会が主催する「正義と平和のための台湾エキュメニカルフォーラム」(以下TEF)が開催された。これはアジア諸国のみならずヨーロッパ、アメリカからも発題

「帝国主義の影響と宣教の課題についての東アジア部会」である。
期間は10月11～14日。
会場は金曜日と日曜日が
教団会議室、土曜日がホ
テル近くの貸会議室を利
用した。

加であったが、ミャンマーからの参加者については日本から送る必要のあったビザ取得のための書類が、ミャンマーの国内郵便事情の悪化により間に合わなかったのは想定外であった。

ン・リー総幹事から韓国の文脈を用いて主題に対する発題が行われた。

二目目は台湾の教育機関から原住民のジャバカウ・ジャリマロウ氏と香港の教育機関からラップ・ヤン教授の発題

した青年も加わり、礼拝後には良き交わりの時が与えられた。

午後はエパタ教会に移



平氏

（加藤 誠報）

イノリティーである日本の教会の姿に触れる良い機会であった。

T E Fは実行委員会を組織し第2回目の国際会議を検討中であるが、足元の東アジア地域で教会及び団体から数名ずつ集めて更に課題を共有する試みが行われた。それが

がホテルから徒歩3分の距離にあり、予定を早めてホテルに帰着したため、交通の便やゲストの安全に気を使わずにすみ不幸中の幸いであった。ただ、予定では18名の参

総幹事は教団発足当時の資料から、帝国主義が日本基督教団の信仰告白的部分にまで影響を及ぼした事例をあげた。

続いて韓国基督長老会（P.R.O.K.）のジエチヨ

はアジアの諸教会間の協力の可能性について語り合った。

日曜日の午前は教団会議室に集合し、TEFの実行委員会に提出するレポートを作成した。10時



TEF の趣旨説明



TEF の趣旨説明をする PCT 黄伯平氏



李韓国 NCC 総幹事

荒野の
インフラ
が充分に
整っていな
いアフリ
カ・ケニア
でもイン

サイの戦士は、ソーラーパネルでスマホを充電する。ITがもたらした情報革命は、世界を二つにしたのだろうか。▼「コミュニケーションだけに、悲惨な事態を招くんじゃないですか。人々の共通性をもとにした形で、安全、経済、福祉等の問題を共有していかなければならないんですよね」（緒方貞子『共に生きるということ』P H P 研究所）。▼日本人女性初の国連公使となり、国連難民高等弁務官として人道支援に貢献した緒方貞子さんは、価値を一定程度共有することなしに情報だけが行き交うつながりは、人々の理解を深める一方で、分断を顕在化し、亀裂を深めるきっかけにもなり得ることを見抜いていた。今、世界では、その懸念が現実になっている。▼教団に載せられた教会を覚えて祈り、献金を送る取り組みを始めた。これが豊かな実りを生むかどうかは、共通の基盤を確認しつつ、一人一人が身近なところから主にある交わりを形作って行くことに、地道に仕えていけるかにかかっている。

天皇代替わり、教区の取り組み

日本基督教団は、「天皇の退位および即位の諸行事に関する声明」を出しました。教区の取り組みとして、今号で西中国教区、大阪教区、次号で東京教区、北海教区、兵庫教区を取り上げ、報告します。

◆西中国教区◆

学習を越える取り組みを実施

現状において天皇制の問題は二つに分けて考える必要がある。一つは、法的な問題。つまり象徴天皇制は残念ながら憲法と関連法規がある。しかし、その運用が超法規的に為されている問題である。それは違憲・違法行為であり司法が糾すべきところを政治権力に流され、まともな判断ができない。

前回の代替わり直前の88年、山口自衛官合祀拒否訴訟最高裁不当判決もその一つである。教団信徒によって提起されたその裁判支援の繋がりは、判決後も毎年開催する不当判決抗議集会を通じてあり続けている。

今回の代替わりの際には、この繋がりを基に教区靖国天皇制問題特別委員会が軸となり、昨年10月、憲法学者の横田耕一氏を迎え「天皇代替わり問題を考える集い@やまぐち」を開催、併せて「天皇代替わり問題連絡会@やまぐち」を立ち上げた。それは単なる学習を越えて、既に提訴準備を発信した。

その後、同連絡会は訴訟支援の他、県知事の護国神社参拝問題に取り組んでいる。また10月22日には「第2回天皇代替わり問題を考える集い@やまぐち」を開催し、大嘗

祭二日目の11月15日には第3回を山口市民館前出発のデモ行進として開催した。教区内では広島において広島西分教区により「10・22『即位礼正殿の儀』を問う広島集会」が開催された。

その他、委員会として2019年9月20日付で「即位の礼及び大嘗祭に現れている、政府の憲法軽視及び違反に関する抗議声明」を表し、幼児施設等に関関官房が出した奉祝要請に対しては宣

法軽視及び違反に関する抗議声明」を表し、幼児施設等に関関官房が出した奉祝要請に対しては宣



第3回目
10月13日、東梅田教会を会場に

◆大阪教区◆

教会から生まれた「人権」は普遍的な理念

大阪教区は総会で「大嘗祭に反対する」ことを確認・決議し、その取り組みを行なっている。既に3回の集会を持った。

第1回目、発題者の原田佳卓牧師（隠退教師）は、何でも無批判に尊重する態度に生き続ける国民の忠誠心の構造を指摘し「宗教の自由」とは国家を越える「人権」という価値の受容承認によって成立するのであり「聖なる価値の担い手としての個人」という人間観が必要だと主張した。同じく発題者の吉本幸嗣牧師（岸和田教会）は、国家神道において現人神信仰を復活させようとする動きに対して反対する必要を述べ、特に日本基督教団信仰告白の「主の再び来たりたまふを待ち望む」に立脚し、キリスト者が「天皇制」の問題性を世に発信することの大

切さを語った。

第2回目、講師の星出卓也牧師（日本長老教会西部柳沢キリスト教会）は、戦後の天皇の「人間宣言」後も皇室祭祀を担う天皇の職務は依然として在ることの問題性を語り、私たちは「イエスは主である」と告白する教会の信仰を守ることだけに終始するのではなく、

神がたてられた国が神の国となるという課題をも担っており、キリスト者は少数者だからこそ偽りで固めた牙城を崩せる存在だと語った。

第3回目、講師の新堀真之牧師（香椎教会）は「九州教区宣教基本方針2017年度―2026年度」に触れ、宮中祭祀の祭司として大嘗祭において「カミ」となる「宗教性を帯びた天皇」に思

いを馳せることは、聖書の神と並べて他の神々を拜すること指摘し、心を向けるべきものに心を向け私たちが自らの信仰のあり方を考えること、天皇制の課題に向き合うことに繋がると語った。

教区として、今後「天皇制」にいかに関わり、新たなステージを迎えていく。「人権」という概念が教会から生まれたこと、教会は、人権や差別の課題は国家を越えた普遍的な理念であることを積極的に発信し、キリストが教会の主であり国家の主であると世に証しするためにも、信仰者としてのあり方が問われている。

◆教師委員会◆

「教師継続教育研修会」、来年度は見送り

第3回教師委員会は10月28日、神学校問安のあ

と、関西学院教会にて開催された。

はじめに報告事項を扱ったが、その中で「神学校日献金」の現在の経過報告がなされた。ここ数年、献金が減少する傾向にあるのに加えて、

校日が台風であったこともあり、さらに厳しい予想であることが報告された。教団の教師養成にとって大切な献金であるので、引き続き献金が満たされるように祈って待ちたい。

今回、特に重要な審議事項は、「教師継続教育研修会」と「教師検定規則第4条および第5条変更」に関する件であった。教師の継続教育を求める声が高まる中で「教師継続教育研修会」の積極

的な意義と長期継続の必要性を受け止めながらも、来年度はオリンピック開催時の混雑等を予想し、開催を見送ることにした。その間、財政的なことも踏まえ、開催場所についても検討を重ねて行くことを決めた。

「教師検定規則第4条および第5条変更」に関して、教規第39条(1)による「教団議長招集会議」の報告を受けて、教師委員の忌憚ない意見を話し合った。その中で特に試

験内容の変更は、受験者の不利益にならないようにもっと時間をかけることが必要であること、より積極的な意義づけをもつてなされるものであることが意見として出された。これらの意見をまとめて教師委員会の見解とすることを確認した。

神学校の問安は、今回は同志社大学と関西学院大学神学部を問安し、有意義な話し合いの時を持った。次回は11月18日に、東京聖書学校と日本聖書神学校を問安予定であり、東京神学大学と農村伝道神学校は日程を調整中である。

日本伝道の推進を祈る日

頌主。

いよいよ11月17日（第三主日）から、「日本伝道の推進を祈る日」が全教団的に始まりました。

『信徒の友12月号』（11月10日発行）では『北海教区』と『奥羽教区』が、各々の教区内諸教会・伝道所の様子と困難な中、伝道に取り組む姿が報告されています。どうぞ是非手に取ってお読みください（購読はいつでも始められます。出版局へ直接に、または最寄りのキリスト教書店にてお申込みください）。

教区によっては、伝道の厳しさの中にある教会・伝道所を二か所あげている場合もありますが、上記2教区のように、教区の諸教会・伝道所すべてをおぼえて、全体で伝道に取り組んでいる、という報告がなされる場合もあります。各教会・伝道所にて、お祈りの工夫をしてくださると感謝です。

次号『信徒の友1月号』では、「東北教区」と「関東教区」が、伝道報告をします。皆さんで、教団の伝道がいつそう推進されるように祈りを合わせましょう。

日本基督教団総幹事 秋山 徹



第2回
天皇代替わり問題を考える集い@やまぐち



関西学院大学神学部を問安

はじめに報告事項を扱ったが、その中で「神学校日献金」の現在の経過報告がなされた。ここ数年、献金が減少する傾向にあるのに加えて、

校日が台風であったこともあり、さらに厳しい予想であることが報告された。教団の教師養成にとって大切な献金であるので、引き続き献金が満たされるように祈って待ちたい。

今回、特に重要な審議事項は、「教師継続教育研修会」と「教師検定規則第4条および第5条変更」に関する件であった。教師の継続教育を求める声が高まる中で「教師継続教育研修会」の積極

的な意義と長期継続の必要性を受け止めながらも、来年度はオリンピック開催時の混雑等を予想し、開催を見送ることにした。その間、財政的なことも踏まえ、開催場所についても検討を重ねて行くことを決めた。

「教師検定規則第4条および第5条変更」に関して、教規第39条(1)による「教団議長招集会議」の報告を受けて、教師委員の忌憚ない意見を話し合った。その中で特に試

験内容の変更は、受験者の不利益にならないようにもっと時間をかけることが必要であること、より積極的な意義づけをもつてなされるものであることが意見として出された。これらの意見をまとめて教師委員会の見解とすることを確認した。

神学校の問安は、今回は同志社大学と関西学院大学神学部を問安し、有意義な話し合いの時を持った。次回は11月18日に、東京聖書学校と日本聖書神学校を問安予定であり、東京神学大学と農村伝道神学校は日程を調整中である。

（上原智加子報）

◆部落解放全国会議◆

「SAYAMAからの解放くさらなる広がりへ」

第14回日本基督教団部落解放全国会議in関東地区が10月29～31日に大宮教会を主会場に行われ、区より150名の出席が



上、大宮教会を主会場に150名が集つ
下、石川さんご夫妻

た。テーマは「SAYAMA 与えられた。狭山事件から56年。石川一雄さんは80歳をすぎた今も無罪を訴えている。部落差別が背景にあるこの事件は、様々な新証拠の開示と科学的な鑑定によって、その無罪はますます明らかとなっている。石川さんご夫妻を迎えてのこの会議は、まずそのことを学び、再審無罪の時が一日も早く訪れることを祈り、闘う時となった。また和泉一部落解放同盟栃木県連合会執行委員長(氏家教会信徒)より部落解放運動の歴史とその表舞台でのマイノリティーについての講演を聞き、国際人権基準の視点を持って様々な人権問題に取り組んでいくことを学んだ。

二日目は部落差別問題と共に関心人権問題を学び分かち合った。性差別を山下明子世界人権問題研究センター嘱託研究員、聖書研究を山口里子「日本フェミニスト神学・宣教センター」共同ディレクター(聖書学者)、沖縄・宮古島の基地建設を坂口聖子宮古島伝道所牧師、在日コリアンを金性済NCC総幹事。そして4つのテーマごとに分団協議し、全体会で分かち合った。一つ一つ人権問題は広がりを持ちつつつながっていること。キリスト者は信仰の視点を持ちつつ、国際的な人権基準に立って、連帯していくこと。その中で教会、教団、部落解放センターの必要性を共有し、さらなる広がりのために

連帯していくことを祈り合った。会議全体は賛美にあふれ、食事は出会いと交わりの時となった。また台風と豪雨被害について報告し合い、祈る時となった。

三日目は銀座教会ホールでの派遣礼拝・狭山事件の再審を求めるキリスト者集会。日比谷公園大音楽堂での狭山市民集会に参加し、石川さんの再審無罪を祈りつつデモ行進をした。「よき日のために、歌おう共に、みんなが心から笑える日がきつとくる」。「勝利をのぞみ、勇んで進もう、大地踏みしめて、ああ、その日を信じて、われらは進もう」と歌いながら。

(熊江秀一報)

◆エキュメニカルプロジェクト◆

違いから学び、一つになって礼拝



日本福音ルーテル東京教会を会場に

「えきゅぷろ」をご存知だろうか。正式名はエキュメニカルプロジェクト。超教派の青年たちと交わりを持ちたいと願ったことから始まった。毎回有志の青年たちが実行委員会を組織し、実にきめ細やかな準備を重ねている。実に思いが記されている。「クリスチャン人口1%弱のこの国で、『イエス・キリストのもとに一致しよう!』と集まった複数の教派(現時点ではカトリック教会、日本福音

三浦さんによると、カトリック教会、日本基督教団)の青年からなる団体のです。さまざまな交流の機会を皆さんと一緒に「実行」していきたいので、すれつご!えきゅぷろを超えて一緒に何かしようとの機運が高まり2017年に最初の集まりがスタートした。初回は約150名の青年が参加。フェイスブックのページには開始当初の熱い思いが記されている。説教、式次第には四つの主の祈りのパターンが示された。その後、ゲームで汗を流し、小グループに分かれて自らの祈りの生活を振り返り、分かち

三浦さんによると、カトリック教会、日本基督教団)の青年からなる団体のです。さまざまな交流の機会を皆さんと一緒に「実行」していきたいので、すれつご!えきゅぷろを超えて一緒に何かしようとの機運が高まり2017年に最初の集まりがスタートした。初回は約150名の青年が参加。フェイスブックのページには開始当初の熱い思いが記されている。説教、式次第には四つの主の祈りのパターンが示された。その後、ゲームで汗を流し、小グループに分かれて自らの祈りの生活を振り返り、分かち

三浦さんによると、カトリック教会、日本基督教団)の青年からなる団体のです。さまざまな交流の機会を皆さんと一緒に「実行」していきたいので、すれつご!えきゅぷろを超えて一緒に何かしようとの機運が高まり2017年に最初の集まりがスタートした。初回は約150名の青年が参加。フェイスブックのページには開始当初の熱い思いが記されている。説教、式次第には四つの主の祈りのパターンが示された。その後、ゲームで汗を流し、小グループに分かれて自らの祈りの生活を振り返り、分かち

(増田将平報)

◆第2回全国信徒大会◆

「若者と献げる喜びの礼拝」を求めつつ

10月14日、富士見町教会で開催、教師、信徒155人が出席した。

第1部記念礼拝では、石橋秀雄教団総会議長が「伝道の命と力の回復」と題して説教した。

「教団の歴史に主が憐れみを注ぎ、導いてくださったことに感謝と共に希望を抱いている。『共に祈ろう、共に伝えよう、共に献げよう』、教団伝道推進基本方針の展開を一つになって進めよう」と力強く結んだ。

礼拝後、開会挨拶で望月克仁全国信徒会会長は「二人が一人の未信者を教会に招こう」と訴えた。

第2部講演・フォーラムでは、大会主題「青年伝道」について増田将平牧師による主旨説明の後、「若者と献げる喜びの礼拝」と題して大嶋重徳KKG総主事が登壇した。「私たち

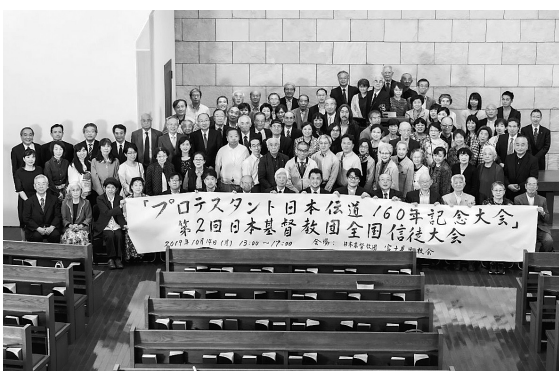
上で二人の目が開かれエルサレムへ戻って伝道が始まることに重ね合わせて、「若者と共に祈り、喜びの礼拝を献げることを願うとき、あなたは祈り祈られるか」と語り、若者と祈り祈られる中で開かれる新たな交わりの大切さを示唆した。

若者の礼拝事例紹介で、齋藤篤牧師は「十人が一人を」と題して、若者が主体となって礼拝を守るワークショップの数々を映像で紹介した。

つづくフォーラムでは、講演と事例紹介についての意見・質問を受けて、高齢者も若者も共にまじわることの大切さなど意見が交わされた。

準備に当たった東京信徒会は、160字メッセージ寄稿を呼び掛け、76人が参加した。「プロテスタント日本伝道160年記念大会 第2回日本基督教団全国信徒大会」には伝道160年目の信徒の声が生き活きと記録され、日本伝道200年に繋いだ。

(鈴木功男報)



富士見町教会を会場に

「学生時代に長老から自分のために祈ってほしいと言われ、祈る言葉も知らないまま祈ったことを今も明確に覚えている」。

ルカ書24章をひも解きつつ、エマオへの途

を教会し、08年隠退。遺族は妻・佐々木容子さん。

尾崎風伍氏(隠退教師)さん。

伝道所所在地変更
取手 千302-0001 取手
手小文間 4188
取手幼稚園内
教会通信先変更
新見 千718-0011 新見
市新見42 長谷川清方
伝道所通信先設定

袖ヶ浦ともしひ
千131-0043 東京
都墨田区立花1-11
1-702 芳賀慶治
気付

お知らせ
教団三局は12月24・25日、および28日から1月5日は休業、6日より通常業務となります。

総幹事 秋山 徹

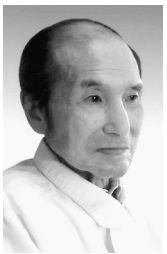
事務局報

佐々木 茂氏(鹿島栄光



教会主任担任教師)

19年11月6日逝去、82歳。山形県生まれ。72年日本聖書神学校卒業。同年より酒田、鹿島栄光教



尾崎風伍氏(隠退教師)

19年11月4日逝去、89歳。長野県生まれ。86年受允、88年受按。86年より海老名、井草、久我山伝道所(90年教会設立)

19年11月4日逝去、89歳。長野県生まれ。86年受允、88年受按。86年より海老名、井草、久我山伝道所(90年教会設立)

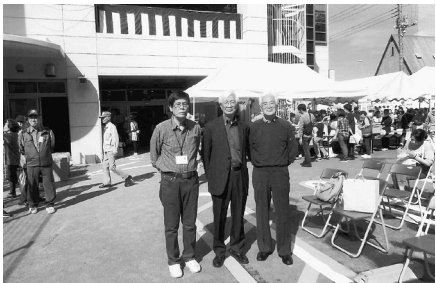
伝 道 報 告

伝道の
ともしび

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節～20節

「福祉の心」を宣教力へ

神奈川教区・横須賀基督教社会館理事長 佐藤 千郎



上、現在の横須賀基督教社会館全景
下、2019年バザー
(左から岸川、佐藤、阿部各氏)

開設に責任を持ち、教団総会議長も含め牧師、信徒らが、それらの運営を担いました。横須賀基督教社会館は杉浦義人牧師の着任を待って活動を開始、間もなくして地域青年の希望により聖書研究会が開かれ、後に田浦教会に発展します。

富国強兵を柱に据えた国家が、昭和20年敗戦により崩壊、占領下にあった時、軍都横須賀の文化都市への転換を志した人物が、米海軍横須賀基地司令官デッカー大佐です。キリスト者デッカーは着任直後の1946年、市内にある旧海軍施設を使い、教育、医療、福祉の事業を始めるよう、キリスト教関係者と呼びかけました。「戦争の落とし子」と言われる所以です。

戦後日本に戻り、田浦に働きの地を得たトムソンは、「最も小さい者のひとり」の困窮に即応し、保育園、母子寮を開き、活動の重点を地域のニーズを住民自ら気付くこと」に置いて町民を啓蒙、図書館を開設、町民の文化的意識を高めました。特記すべきは、日本初の「老人クラブ」を組織したことです。

1957年2代目館長に就任した阿部志郎は、専門的社会福祉と先駆的の事業の展開に取り組み、特に、「田浦たすけあいの会」、「たうらの町ふれあい福祉バザー」などに見られるように、トムソンが目指した地域福祉を田浦に根付かせました。そして、これら活動の歴史は、キリスト教と縁遠い地をキリスト教に開かれた町へと変えていきました。

キリスト者阿部がこの時期に向き合った課題が、教会との宣教(伝道)をめぐる神学的理解の違いと、教会からの経済的自立でした。

会館建て替えを勧める横須賀基地内教会のチャプレンから、費用の全額支援の申し出がありました。宣教師としての来日、戦争により帰国しますが、日本の敗戦を見通し、大学院に通い、社会事業を専攻、敗戦後の日本に備えました。

戦後日本に戻り、田浦に働きの地を得たトムソンは、「最も小さい者のひとり」の困窮に即応し、保育園、母子寮を開き、活動の重点を地域のニーズを住民自ら気付くこと」に置いて町民を啓蒙、図書館を開設、町民の文化的意識を高めました。特記すべきは、日本初の「老人クラブ」を組織したことです。

2007年3代目岸川洋治が館長に就任、少子高齢化、暮らしの多様化など時代の変化に対応しつつも、先駆性を失うことのない施設の形成と運営を全職員と共に話し合い、現場の取り組みに生かしています。

さらに、地域福祉事業を通して深められてきた「福祉の心」を宣教力へと高めるため、施設内だけでなく教会も含めた神学的対話の構築、地域教会との協力関係を模索しています。

キリスト教社会福祉の現場も宣教の最前線です。福祉事業個々の歴史の足跡に、信仰の生きた証を読み取り、継承し、宣教の言葉として発信していくことの大切さを思います。

「たうらの町ふれあい福祉バザー」などに見られるように、トムソンが目指した地域福祉を田浦に根付かせました。そして、これら活動の歴史は、キリスト教と縁遠い地をキリスト教に開かれた町へと変えていきました。

11月2日、東京教区千葉支区主催で、東京基督教大学(TCU)キャンパスツアーが開催された。ツアーの副題として「魅力的な教会となるために」と題され、特に次世代の若い信徒をどうよ

うに教会へ繋げていくかを意識する会となった。この会は、日本基督教団の伝道資金を用いる会で、千葉支区としては伝道資金を用いた3回目の会である。また、TCUは千葉支区内にある福音派の神学校であり、千葉支区の伝道の視点が、他教派との協働という視点を

見学後はTCU教会音楽主任の宇内千春氏によるオルガンコンサート、TCU神学生二人と千葉支区青年一人からの証しを通し、生の青年の声に耳を傾けた。

最後に、日本基督教団出身の山口陽一TCU学

長から、「教団出身者であり、現在は他教派にあるものとして、ようやくこのような時を迎えることができた」との挨拶を受けた。小林信人報

◆千葉支区 TCU キャンパスツアー◆

魅力的な教会となるために



講師に TCU 教授・岡村氏



鈴木由味子さん

弱さという賜物



東京都生まれ。東洋英和女学院女子短期大学保育科卒業。広尾教会員。会計担当役員を務める。

「生まれてからずっと神様に導かれてきたと気付いたんです」。そう受洗のきっかけを振り返った通り、幼いときからキリスト教が近くにありました。教会幼稚園、教会学校、ミッション系の高校、短大と過ごした。卒業後は教会付属幼稚園の先生に。結婚後退職し、夫の駐在先バンコクへ同行。そこで、以前勤めていた幼稚園を運営する教会の事務員と偶然再会。日本人宣教師の関心集いに誘われて通った。異国の地で生活、特に出産と子育てに孤独を感じたが、集会の人々が支えてくれた。しかし信仰には至らなかった。

帰国後、今度は夫が単身で海外へ。3人の子供を抱え、夫の両親と隣同士の生活に。慣れない環境で家族を守るため、良い母親であらうと目の前の課題を必死にこなした。苦しくて我慢すれば報われる日が来ると信じ、自分の思いに蓋をした。でも誰も認めてくれない。そればかりか乳がんも患った。空しかった。周りへの恨みが募った。誰かに救ってもらいたい、生まれ変わりたいと願った。

ある日曜日、背中を押されるように学生時代の聖書と讃美歌を手に近所の教会へ。初めて聞く説教は、まるで自分のことを知られていると思う

と恐れられるほど福音宣教の感染力：ではなく影響力を持っていたということである。最近、新人採用において、SNSのフォローワーが一定数を越えているといった条件を満たしているインフルエンサーのための「インフルエンサー採用枠」を取り入れた企業が増えているとのニュースがあった。

であったし、明治期に来日した宣教師たちの信仰に立脚した教育、医療、福祉等々の各分野における先駆的な働きにおいてもそうであったと思う。

以前、ある牧師が、「我々牧師は、パウロのように外に出かけて行って福音を宣べ伝え、出会った一人ひとりの心の内に信仰の炎を燃やす」火点(つ)け役であるべきなのに、教会内の様々な問題の対応に追われる「火消し役」になっていることが多いんだよね」と嘆いていた。

福音の
インフルエンサー

日本伝道の推進のために、信徒と教師一人ひとりが、それぞれの置かれた場で、また、遣わされた地で、福音のインフルエンサーとして活躍するものではないか。

（教団総会書記 雲然俊美）